

	糖尿病対策部会	がん対策部会
開催日	平成20年 1 月 31日 (木)	平成20年1月29日 (火)
議題	<ol style="list-style-type: none"> 平成19年度糖尿病対策の進捗状況について 市町村の状況と部会からの提言(案)について 「健康日本21あいち計画」改定(追補版)について 平成20年度糖尿病・メタボリックシンドローム対策事業の推進について 	<ol style="list-style-type: none"> 愛知県生活習慣病対策について 平成19年度各がん検診精度管理委員会開催結果について 愛知県がん対策推進計画の策定について がん登録事業について
部会の検討状況 (意見等) (箇条書き)	<p>平成20年度から導入される特定健康診査・特定保健指導のための基盤整備として事業を展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域におけるポピュレーションアプローチとして、外食栄養成分表示店や健康増進施設、健康の道を掲載した「メタボ脱出！ハンドブック」の作成・配布及び普及のための講演会を実施した。 <p>地域間による取り組み格差があるのではないかと。全県的にも普及啓発できる方法を考えて欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域におけるポピュレーションアプローチとして、メタボリックシンドロームに無関心層を対象に「アクティブウェルネス07フェスティバル」を県下3箇所において実施し、約5万人の参加があった。 一時的な啓発事業に終わることなく、関係機関・団体と連携し継続した事業展開が望まれる。 <p>外食栄養成分表示店の現状や指定店の抱える課題について調査研究を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養成分表示を実施したことにより、健康に配慮するメニューを提供するお店や味付けなどに気をつけるようになったお店が増えたことから表示制度の意義が提供する飲食店に対し好影響を与えた。 ・今後、栄養成分表示制度を推進していくうえで、利用者の表示制度に関する認知を高めて欲しいや表示方法をわかりやすくして欲しいなどの意見が多かった。 <p>食事バランスガイドを活用するなど、利用者の気をひくような仕組みを取り入れるなど制度を含め考える必要がある。</p> <p>平成18年度の基本健康診査結果から40歳代男性のBMI25以上の肥満者割合は、約32%であったことからメタボリックシンドロームに該当する恐れがある。</p> <p>また、40歳代女性のBMI25以上の肥満者は約15%で、男性の半分であるもののBMI18.5以下のやせに属する人たちが約11%ということから性別、年代を考慮した情報提供が必要である。</p> <p>このような結果を市町村や医療保険者等への啓発し、効果的な予防活動を図る必要がある。</p>	<p>【各がん検診精度管理委員会開催結果について】</p> <p>住民検診、職場検診、人間ドックを合わせたがん検診の受診率を把握する必要がある。</p> <p>死亡率を下げるには受診率を上げることより、未受診率を下げるのが大切である。</p> <p>乳がんについて、マンモグラフィーによる検診が普及してきたが、読影をする者が不足している。</p> <p>【愛知県がん対策推進計画の策定について】</p> <p>予防に関しては、喫煙対策が重要である。中学生、高校生に対する教育ではもう遅いので、小学生に対する防煙教育が大切である。</p> <p>治療の初期から心のケアを行うことが大切であり、計画の中で取り上げて欲しい。</p> <p>放射線療法、化学療法の実施は不十分である。医師、技師が不足しており養成していくことが必要。</p>
今後の方向性 (箇条書き)	<p>平成19年度事業を踏まえ保健所・市町村・医療保険者、そして関係団体へ平成20年度にむけて糖尿病対策部会からの提言を行う。</p> <p>(提言内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>関係機関・団体と連携し効果的なポピュレーションアプローチを</u> 「誰に」「何を」「どのように」知らせるかを明確にし、啓発活動を実施することがのぞまれる。 ・ <u>栄養成分表示や受動喫煙防止の一層の推進によりヘルスプロモーションの充実を</u> 施設の充実を図ることが、地域住民のヘルスプロモーションの意識を高めることとなるために一層の促進が重要 ・ <u>働き盛り世代の男性にメタボリックシンドロームの概念を</u> 該当の多い年代をターゲットにメタボリックシンドロームの概念を普及啓発することが大切 	<p>職域も含めたがん検診の受診率を把握するため、保険者協議会にも協力を依頼し、把握に努めたい。</p> <p>部会で出された意見については、内容を精査し今年度中に策定する「愛知県がん対策推進計画」へ反映させることを検討する。</p>

	循環器疾患対策部会	歯科保健対策部会
開催日	平成20年1月11日（金）	平成20年1月25日（金）
議題	1 循環器疾患登録事業について 2 基本健康診査について 3 愛知県地域保健医療計画について 4 健康日本21あいち計画について	1 愛知県生活習慣病対策について 2 「健康日本21あいち計画」改定及び医療計画の見直しについて 3 歯科疾患対策事業の推進について ア．特定健診・保健指導を視野に入れた歯周病対策について イ．歯科疾患対策について 4 その他
部会の検討状況 (意見等) (箇条書き)	<p>【循環器疾患登録事業について】</p> <p>事業の目的の一つである発症率の把握については、届出件数、個人情報などの問題により、限界があるが、これまでの登録データを解析し心筋梗塞の発症要因について一定の結果がでたことは評価できる。届出件数が上がらない要因の一つには、届出票の作成に医師の手を煩わしていることがある。大きな病院では電子カルテ化が進んでいるので、それと連動した届出を考えるとできないか。</p> <p>【基本健康診査について】</p> <p>検査結果の異常率が上昇している項目がある。診断基準が変更されたこともあるので、変更による上昇と、それ以外の要因による上昇との見極めが難しい。</p> <p>【愛知県地域保健医療計画・健康日本21あいち計画について】</p> <p>医療費削減のため、入院期間の短縮を求められ、リハビリテーションは見直しがされてきている。リハビリは既に実施回数等の制限や、診療報酬の低減が進んでおり、リハビリの実施をやめる施設が増え、実施している施設に患者が集中し、十分対応できない状態である。医療費の面からはやむを得ないと思うが、医療という面からは疑問である。</p>	<p>平成20年4月から、特定健診・保健指導がスタートするが、その中での「歯の健康」に関する係わり方について協議・意見交換を行なった。特に、ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチの効果的な実施方法について「歯周病と糖尿病」「歯周病とタバコ」の観点から共通認識を深めた。</p> <p>【特定健診・保健指導を視野に入れた歯周病対策について】</p> <p>ポピュレーションアプローチや、ハイリスクアプローチの中で、「歯の健康づくり得点」の活用を進める。「歯の健康づくり得点」は、保健行動の気づき、保健行動介入に有効なツールである。今年度県が作成を進めている「歯周病と糖尿病」に関する教育用媒体は、糖尿病の教育入院・外来の場面のみならず、特定保健指導の場面での啓発にも役立つものである。今年度、特定健診・保健指導を歯科の観点から支援するために、県が県歯に事業委託を行い、生活習慣病指導医研修を開催した。多くの会員が歯周病と糖尿病について理解を深めた。地域の歯科診療所での受け皿づくりの体制が整いつつある。職域でも、「歯の健康」は重要な健康管理の視点であると考え。本日の会議資料に示されるような情報がほしい。産業医の研修でも、「糖尿病と歯周病の関係」に踏み込んだ研修してほしい。来年度以降の事業の中で、「歯周病と糖尿病」の地域連携クリティカルパスを全県下で推進するために、糖尿病健康手帳を活用するなどして、医師と歯科医師が情報共有し、糖尿病の重症化予防を進める方向性を確認した。</p> <p>【歯科疾患対策について】</p> <p>3歳児のう蝕有病者率は、平成17年度都道府県別（政令市・中核市除く）で全国1位となった。これは、平成9年度以降の市町村での一貫した歯科保健サービスを充実させてきた結果と考える。保健所が市町村の状況を確認し、課題解決のために保健所と市町村が協同で事業の効果的な運営をしてきた結果と考えられる。今後は、永久歯う蝕の減少、特に、第一大臼歯の健康を守るために、フッ化物洗口をさらに推奨していく。その際、フッ化物洗口を通して、“健康を守っていく姿勢”を子どもたちに芽生えさせていく働きかけを併せて行っていくことが重要である。学校現場における、子どもの健康問題は多様化しているが、「歯みがき」「おやつ指導」「フッ化物の応用」の3つをうまく組み合わせ、う蝕予防を推進していく必要がある。</p>
今後の方向性 (箇条書き)	<p>循環器患者登録事業については、安定した高い届け出率が期待される方策を検討、実施しながら、引き続き事業を行っていく。</p>	<p>「歯の健康づくり得点」はセルフチェックから行動変容を促す有用なツールであるため、特定健診・特定保健指導での活用を提案する。また、「歯周病と糖尿病」の地域連携クリティカルパスを具現化していく。県主催の地域・職域連携会議の中でも、歯周病対策について取り上げてもらえるよう働きかけをする。県医師会主催の産業医研修の中でも、『全身疾患と歯周病』を取り上げてもらえるよう働きかける。フッ化物洗口については、地域の実情に合わせ推進・継続をしていく。</p>